浜田市行財政改革大綱（素案）修正箇所一覧

資料1

	意見等（原文のまま）	浜田市所見等	修正箇所（原文）	修正（案）
Ⅰ改革の背景	総人件費の抑制が進む一方で事務事業が増えているということは、職員数を定員適正化計画で削減する一方、事務量が増加していることを表していると思うが、職員の負担が増している現状を明記し、広く市民に知ってもらう必要があるのではないか。	委員の言われるとおり、これまでの行財政改革による職員数の削減と、国や県からの権限移譲等により、職員の負担は増しているという現状はあります。 それを解消するためにも、業務のアウトソーシングをはじめとする行財政改革を進めていかなければならないと考えています。 その現状については、明記する方向で検討します。	7ページ7行目以降に文言を追加し、業務量が増えている現状とアウトソーシングの必要性を説明。	国や県からの権限移譲により、職員一人当たりの業務量は年々増加する傾向にあります。業務のアウトソーシング等を更に推進することにより、市が抱える業務量を減らし、本当に必要な住民サービスに傾注できる体制を時代に合わせて構築していくこと重要です。
Ⅱ行財政改革の必要性	「行財政改革の必要性」の文言を見ると、少子高齢化や人口減少など暗い言葉ばかりが並んでおり、イメージダウンに繋がるのではないか。 市民は一生懸命働いて、元気を取り戻そうとしている。もう少し将来の夢を描き上げるような、明るい文言にしてはどうか。 締めくくりに、将来の夢を見ることができるような表現にしてもらえば、市民も理解しやすい。	財政状況や人口減少など暗い状況が無ければ行財政改革も必要ないため、どうしてもこのような表現になってしまう。 将来に明るい見通しを立たせるために行財政改革を進めていこうとしており、明るい部分の計画については、総合振興計画で記載しているのでご理解いただきたい。 表現について、見直すことができる部分があれば検討する。	将来の夢については、総合振興計画で表現することとし、行財政改革大綱では、現状の記載のとおり、明るく開かれた未来を目指すという表現にとどめる。 （修正なし）	
Ⅲ行財政改革大綱の位置づけ	8ページ　図）行財政改革イメージ図（その2）について、上の赤いグラフが中期財政計画で示された歳出。それを行財政改革の実行によって歳出を抑え、青いグラフになるということと思うが、歳出を抑えると言うことだけなら解るが、そこに「歳入確保」や「赤字」、「黒字」というネットの数字が混在しているので解りにくい。	歳入確保により、歳出を押し上げるようなイメージで描いているが、言われるとおり、2つを同時に示すのは解りにくいかもしれない。	8ページ　図）行財政改革イメージ図（その2）	8ページ　図）行財政改革イメージ図（その2）　を修正
	「総合振興計画を実現するため、その両輪として行政運営に係る基本方針を定めた主要計画」とありますが、総合振興計画は市の最上位の計画と位置付けられているので、両輪という表現は相応しくないのではないでしょうか。 また、位置付けを示した図も、現行の大綱で用いられている図の方が計画の上位下位がわかりやすいと考えます。	どちらが欠けてもこの計画は進まないという意味合いで記載していましたが、ご指摘のような考えもありますので、見直しを検討します。 あわせて、イメージ図についてもわかりやすいものに見直したいと思います。	9ページ2行目「また、この大綱は平成28年度までに策定される浜田市の将来ビジョンを示した新たな総合振興計画を実現するため、その両輪として行政運営に係る基本方針を定めた主要計画の一つです。 また、この計画の下には、行財政改革実施計画のほかに、公共施設等総合管理計画や中期財政計画、定員適正化計画といった各分野別の実行方針を定めた計画が策定されており、それら計画に沿って業務を進めることとしています。」 9ページ　図）行政改革の位置付け	行財政改革大綱は、平成27年度中に策定される浜田市の将来ビジョンを示した新たな総合振興計画を実現するため、欠くことのできない主要計画の一つです。 また、この大綱は、行政運営に係る基本方針を定めたものであり、この下に、行財政改革実施計画のほかに、公共施設等総合管理計画や中期財政計画、定員適正化計画といった各分野別の具体的な実行計画が策定され、それらの計画に沿って業務を進めることとしています。 9ページ　図）行財政改革の位置づけ　を修正
Ⅳ2つのテーマと4つの柱	既存の公共施設に限らず「今後の新たな施設整備に当たっては、中長期的視点に立った計画的な財政運営を進めるため、総合振興計画や中期財政計画との整合性を図るとともに、事業の重要性、緊急性などを考慮し、市民の理解を得ながら事業推進を行います。」と言うような文言を追記される方が望ましいと思います。	委員の言われるとおり、新規施設整備に関する視点も重要だと考えますので、文言の追加について検討します。	12ページ9行目「住民ニーズに沿った施設の適正配置を進めます。」のあとに追記し、新規整備に対する考え方を記載。	新規施設の整備については、各種計画との整合性、事業の重要性、緊急性などを十分考慮し、市民の理解を得ながら推進していくこととします。
	ロードマップには瀬戸ヶ島や御便殿の整備にかなりの金額が出ていたが、財政計画でこれをどう受け止めるのか。	瀬戸ヶ島などにどういった財源が必要なのかは、今は計画を見直しており、これから出てくるもの。 ただ、財政破綻は避けなければならないため、財源確保ができるよう財政計画を立てていく。	12ページ24行目に一文を追記し、財政破綻しないためにも、健全な実質公債費比率を確保していく内容記載することにより、財政指標を無視した投資は行わないことを明記する。	実質公債費比率や将来負担比率といった財政指標を健全な水準に保つなど、将来世代に負担を残さない財政運営を推進します。
全体	同じ用語の記載が、「人・モノ・カネ」「人・もの・金」「人・モノ・金」と混在しています。意味は同じですが、統一したほうが良いと考えます。	修正します。	8ページ1行目、10ページ15行目、11ページ2行目	「人・モノ・金」に統一